

🗨️ 議会だより

しろたか

2018年4月16日発行
(平成30年)

Vol.138

山形県白鷹町議会
3月定例会

***議会の録画中継を配信中！
町のホームページから***

「パフェ つくろっ!」

愛真こども園 おやつの時間 18頁に関連記事

クローズアップ 30年度事業 ②p

・ **人口減少対策、効果に期待** 30年度予算審査 ④p

・ **ここが聞きたい** 一般質問3人の議員が町政を問う ⑬p

・ **追跡あの事業は今 コミュニティセンター** ⑱p

・ シリーズ **まちのドクター先生!** ⑳p

減少緊急対策!!

～ 若者定住促進を～

◆結婚新生活支援事業・・・600万円

新婚夫婦が新たに同居を始めるための引っ越し費用や、賃貸住宅の家賃に対し、40万円を上限に助成する。



◆すまいる新生活！賃貸住宅供給サポート事業

・・・1000万円

町内に賃貸住宅を新築する法人及び個人に対し支援をする。若者の町外転出を少なくし、人口減少の抑制をはかる。

◆すまいる住まい！若者定住サポート事業・・・1510万円

若者の定住を促進するため、定住の意思のある若者の住宅建築や購入に対して補助する。平成30年度は、支援内容を拡充して実施する。

【拡充内容】

○若者世帯（世帯員全員50歳未満の夫婦及び親と子の世帯）

・・・50万円→60万円に増額

○他市町村からの移住世帯（世帯主が50歳未満で世帯員全員が町内に転入する世帯）

・・・70万円→100万円に増額

※その他、町内業者を利用した場合、昨年度同様30万円を加算する。



おしゃれな家が建ちならぶ



若者アンケートの結果を反映した、より適確な施策を

3月 定例会

定例会は3月6日から15日までの10日間で開催され、
●平成30年度当初予算 ●29年度補正予算7件・専決処分
1件 ●条例改正14件 ●人事案件3件 ●工事請負契約の一部変更2件 ●指定管理者の指定10件
審議し、原案のとおり可決しました。一般質問は3議員が行い、町政全般について問いました。

クローズアップ 子育て支援と若者定住 出生数の減少・人口

～ 子育て支援の充実を～

◆民間保育所支援事業(ひがしね保育園改修等) ・・・6175万円

平成31年度より0歳児から受け入れ

平成30年度から民営化される「ひがしね保育園」は、白鷹町社会福祉協議会が運営することとなる。充実した保育が実施できるよう、次の内容について補助する。

①乳児受け入れのための園舎

改修工事の町補助分

・・・5399万円

②老朽化した園児バスの更新

・・・776万円



ガムテープで座席を補修

◆子育て世代包括支援センター運営事業 ・・・487万円

妊娠期から子育て期にわたる総合的相談や支援をワンストップで行う拠点。健康福祉センター内に相談窓口を設け、保健師等により、妊産婦等へのきめ細やかな支援を行う。

◆一時預かり事業・・・905万円

町内保育園及びこども園において、保護者の一時的な都合により保育が困難な未就園児を保育する。



明るい笑顔の子育てママ

効果に期待する

平成30年度予算総額143億4002万円
(前年度比6.1%減)



愛真こども園運動会

町のたからもの

総括質疑 — 施政の方針を問う —



少子高齢化、
人口減少対策は

今野 正明 議員

次期総合計画策定に
向けた取り組みは

問 少子高齢化、人口減少が進む中、第5次総合計画が総仕上げの時期を迎え、次期計画の基本構想策定に向けた取り組みを実施するとしているが、具体的にどのような取り組みなのか。

町長 予想を上回る急激な人口減少をふまえ、基本構想として町の将来像、基本理念、目標をしっかりと定め基本計画を策定する。

第5次計画の検証、将来人口の推計、経済情勢や地域特性を把握しつつ、町民の多様な意向、意見を幅広く集めるよう取り組んでいきたい。

生涯学習や自主
活動の拠点は

関 千鶴子 議員

町民ラウンジの活用は

問 まちづくり複合施設を建設中だが、生涯学習の拠点となる、中央公民館機能としての位置づけや、自主活動の推進、町民ラウンジの活用についての検討状況は。

町長 中央公民館と同様に、生涯学習や自主活動のための集う空間として利用度を高めていき、町民ラウンジは自主性を尊重するために、自由な使い方ができる場になりたい。

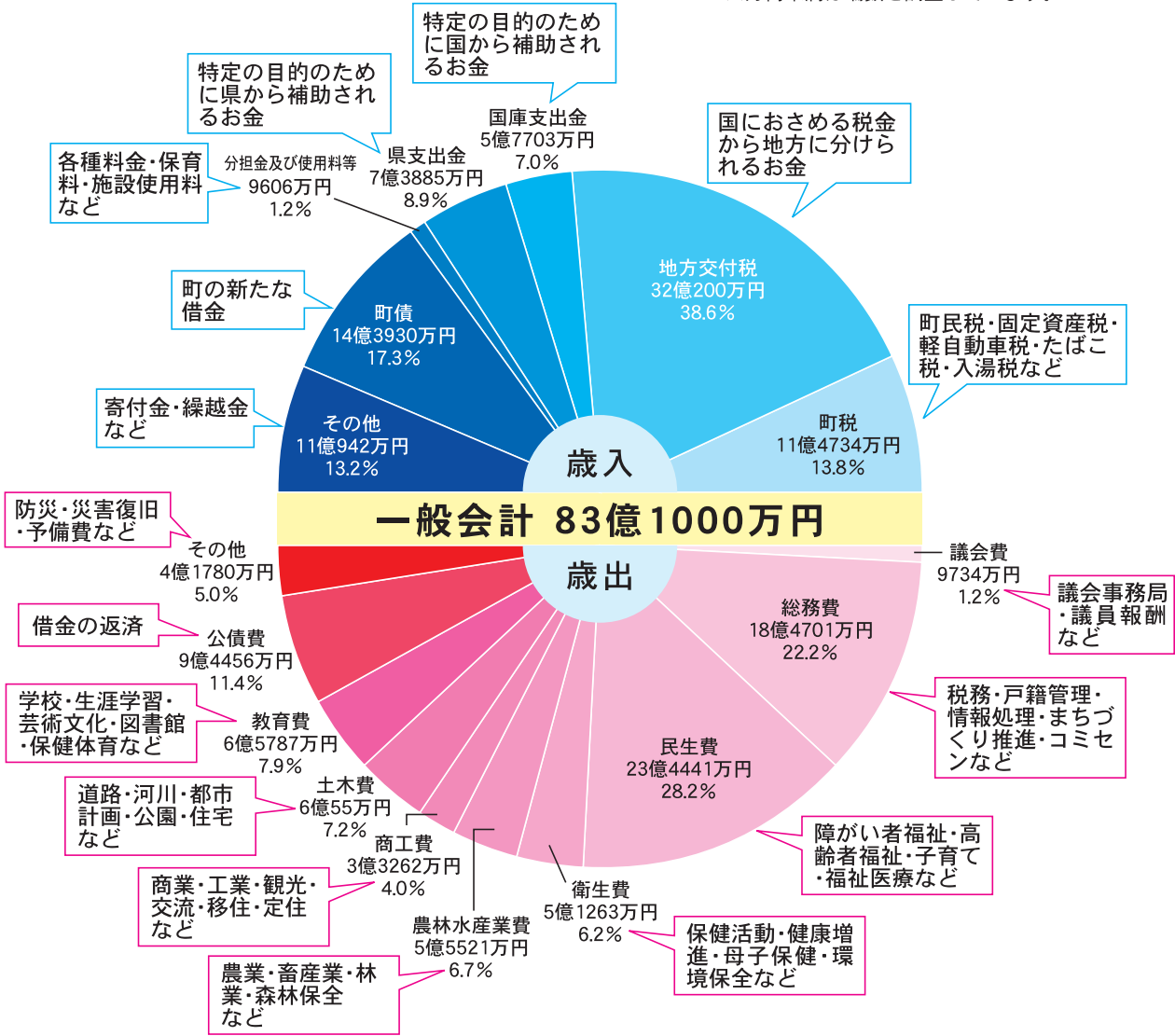
自主的活動の育成については『あゆーむ』なども多く活用いただいております。また、各コミセンの中でも地域が主体となつて、楽しみながら活動に取り組んでいただきたい。

人口減少緊急対策、

- ◆結婚新生活支援
- ◆若者定住サポート
- ◆移住者支援
- ◆子育て世代包括支援
- ◆白鷹人の育成

平成30年度当初予算額			
会 計 項 目			予 算 額
一 般 会 計			83億1000万円
特 別 会 計	十 王 財 産 区		372万円
	下 水 道		6億1604万円
	国 民 健 康 保 険		15億8549万円
	農 業 集 落 排 水		1億6858万円
	介 護 保 険		16億9934万円
	後 期 高 齢 者 医 療		1億4803万円
事 業 会 計	水 道	収益的支出	3億389万円
		資本的支出	1億4820万円
	病 院	収益的支出	11億6187万円
		資本的支出	1億5605万円
	訪問看護 ステーション	収益的支出	3881万円
		資本的支出	0万円
合 計			143億4002万円

※万円未満は端数を調整しています。



予算特別委員会

質疑

歳入
(町の収入)

町民税収、今後の動向は

小形委員

個人町民税は増額、固定資産税は減額とのことだが今後の税収の見込みは。

当局

町税全体で1・2%の減額。人口減少により先行きは不透明。固定資産税は価格の評価替えにより減額となったが、新築、増改築の回復の動きもあるので、慎重に見守りたい。

質疑

歳出
(町の支出)

総務費

管理者研修の対応は

奥山委員

管理者がしっかりと育たないと職員が育たないということもある。研修の受け方と今後の研修において大切なことは。

当局

階級別研修は、基本的には必ず受けてもらうようお願いしている。職場内における自己啓発、職場内における能力開

発、職場外での能力開発を三本の柱とし、組織力の向上につながるよう取り組む。

第6次総合計画で目指すところは

奥山委員

第6次総合計画において、人口減少社会を見据えた中で目指すところは何か。

当局

まちづくりの方向性はこれからであるが、大きな環境変化としては、東西間距離が近くなること。大町裏の土地区画整理事業内の住宅政策なども含めて、人口について考えていく。若い人たちが住み、子育てする環境づくりをさらに進めて行く必要がある。

まちづくり複合施設の予算について

奥山委員

各委託料について、詳しい説明を。

当局

工事設計は、役場庁舎、中央公民館の解体費用について設計するもの。環境整備諸業務は、廃棄物や物品の運搬等の委託。支援業務委託料は、山形県建設技術センターから、発注や検査等の支援を受けるもの。



「おばあちゃん女子会」で米袋バック作り
(地域おこし協力隊の活動)

地域おこし協力隊、応募状況と定住支援は

佐々木委員

29年度末で3人が中途退任することだが、新たな募集の状況と、定住支援の事業内容は。

当局

現在、4件1件が採用の手続中。定住支援は、30年度中に任期が終了する隊員2人に対して、本町に定住するための費用の一部を支援するもの。

デマンドタクシー運行の改善は

笹原委員

土曜日試験運行の結果は。また運行方法の改善は行うのか。

当局

利用者の平土曜日は7人ほど。人から30人なのに対し運行に関してはリピーターを増やすことが重要と考える。業者との契約内容を変更し利用者サービスにつなげたい。

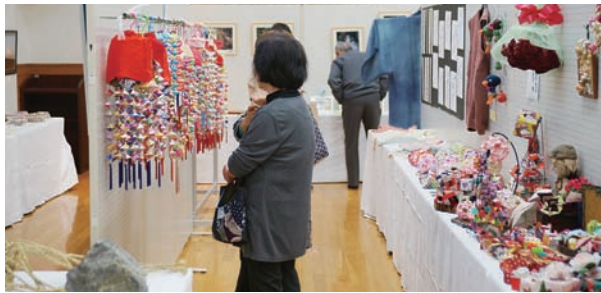
コミセンへのサポートは

笹原委員

新たな事業の展開を促す際のサポート体制は。

当局

コミセンの職員研修を実施する。地域の皆さんと話をしながら幅広い事業を展開してもらいたい。



コミセンでの文化祭

高齢者運転の状況は

渡部委員

高齢者の運転の状況と交通安全対策は。

当局

例年20件弱で、運転操作ミスが多い。高齢者を対象とした交通安全教室は、例年40回ほど開催。町道路面への表示設置や、カーブミラー設置等も行っている。

民生費

しらたか元気っ子事業のありかたは

奥山委員

しらたか子事業は町単独事業であるが、子育て支援医療との関係は。

当局

子育て支援医療は県から2分の1の助成。対象は、外来は小学3年生まで、入院は小学4年

生から中学3年生まで。しらたか元気っ子事業は、それ以外の部分で自己負担が発生するところを支援する。

障がい児福祉サービスの将来の見通しは

奥山委員

前年度より予算増の要因は。児童発達支援の内容は。

当局

放課後等デイサービスの利用者が、3人増える見込み。町内の事業所をなるべく利用できるよう、調整していく。児童発達支援は未就学児童が対象で、日常生活や集団生活への適応訓練などの支援を受ける。

一時預かり事業の課題は

奥山委員

一時預かりの状況、利用者の利用要因は。

当局

利用は、直接、各園に申し込む。通院等により保育が必要になる事例が多い。園ごとに保育の時間、サービスに差があるが、利用者に合った所に申し込みいただいている。

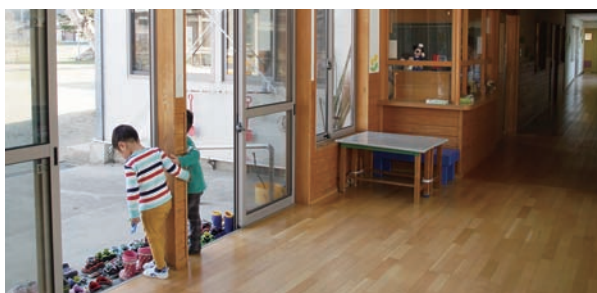
子育て世代包括支援センターとは

奥山委員

新規事業の「子育て世代包括支援センター」と「子育て支援センター」との連携は。

当局

子育て支援センターは、赤ちゃんから就学前の子どもと家族と一緒に来て、子育ての情報交



もうすぐおかえりの時間

換しながら、遊び楽しむ施設。子育て世代包括支援センターは、妊娠から子育て期にわたり、相談や支援をするところ。両センターとも情報共有しながら、配慮していく。

結婚新生活支援の条件は

笹原委員

都会から実家に戻った場合や再婚者も対象か。

当局

実家に戻った場合は引越費用のみ。再婚も該当する。

衛生費

再生可能エネルギーの普及を

石川委員

再生可能エネルギーの有効性が、広く知られていないのでは。

当局

申請件数が少ないのは、電力の買い取り価格が下がっている影響も考えられる。今後も、町報やホームページで周知していく。

農林水産業費

植林後の下刈り支援
継続性は

佐々木委員

再造林支援

事業が植林支援から管理支援へと変わったが、補助割合は。また、何年か継続するのか。

当局

植林後の下刈り経費に対して、国県が68%、町が27%、合わせて95%を補助する。5年間補助する。

電気柵の設置によるクマやイノシシ対策は

佐々木委員

県の補助事業

業に加え、新たに町の単独事業を設けたが、補助内容が違う理由は

当局

町の事業は収穫前の設置が条件。できるだけ県補助事業を活用していただき、不足の部分を町の事業で対応したい。



地域を守る共同活動

農地や農村環境の維持
保全、高齢化対策は

小口委員

高齢化や後継者

不足により共同活動が困難な状況。若い人や非農業者の参加を促すための考えは。

当局

各団体に對して、作業時の事故やけがに備えた保険への加入の勧めや、適切な作業賃金の設定の指導などにより、非農業者の参加を促している。

商工費

町の商業活性化、新たな取り組みとは

佐々木委員

がんばる商店応援事業、新規事業

として取り組む内容と対象者は。

当局

これまでの商業活性化促進事業を見直したもので、30年度からはゆーしーる加盟店のポイントカード事業を支援する。

買い物支援の今後は

渡部委員

今後の取組みの

方向性は。

当局

安否確認という福祉的な役割もある。地域福祉という視点からも、継続していくべきものと認識している。

空き家の対策は

佐藤委員

空き家対策事業

増額の理由は。

当局

空き家バンクの物件を購入し移住した場合に10万円を補助していたが、30年度からは50万円に増額する。移住推進につなげたい。

ふるさと森林公園の修繕内容は

奥山委員

毎年、ふるさと

森林公園の修繕料の予算が組まれているが、今回の修繕内容は。

当局

パレス松風の源泉と浴室のポンプ等の修繕費である。ポンプは耐用年数7年と確認している。今回修繕するポンプが何年経過したかは確認できていないが、アルカディア財団の修繕計画に合わせて予算を計上している。今回のポンプは、最低3年はずっともらいたいと考えている。

町産材事業の内容は

笹原委員

新築・増改築す

べて対象か。業者は町内限定か。上限は。町産材の証明は。

当局

全てが対象で町内業者限定。木造建築に対し商品券で工事費の10%、上限10万円分。町産木材購入費は1m以上使用の条件で、新築は30万円、増改築は10万円が上限。証明は可能。

土木費

西廻り幹線道路建設
促進運動の加速化は

佐々木委員

民間で組織

する建設促進期成同盟会との関わりにおいて、今後の運動の進め方は。

当局

30年度の活動は非常に重

要な意味を持つと認識している。町民、長井市民の力の声を背景に、長井市との連携のもと、活動を活性化していきたい。

建設業の活性化は

佐々木委員

工事請負費

の予算は約1%ほどだが、建設業界の活性化を視野に入れた場合、どう捉えるか。

当局

仕事をつくるという事も大切な課題だが、様々な財源を活用する中にも限界があり、できるだけ地域の要望にこたえる形で取り組んでいきたい。

教育費

安全な通学を

渡部委員

冬季間のスクールバス乗車の対応は、状況を的確に把握し、安全を第一に考えた通学のあり方を考えていきたい。

当局

水路両側への柵の設置を考えている。トイレ設置については、設置経費や設置後の管理の問題があり、今のところ考えていない。



やっとできる駐車場

東陽の里グラウンドの駐車場整備は

田中委員

整備予定地付近に大きな水路がある。また、トイレ設置の要望もある。今後の進め方は、

当局

水路両側への柵の設置を考えている。トイレ設置については、設置経費や設置後の管理の問題があり、今のところ考えていない。

学力向上に向けた指導体制について

奥山委員

白鷹町に住んで子どもを育てたいという親御さんを増やすには、教育の問題も大事である。今後の施策、考え方は、

当局

学力向上には、教員の指導力向上が最も大切である。現在、教育委員会には指導主事が1人いるが、2人体制にして、より頻繁に各学校を訪問し、助言、指導をしていきたい。今後、定年を迎える教員が続き、若手教員が多くなる。指導力向上をはかっていきたい。



新図書館開館に向けた図書購入、選定は

佐々木委員

図書購入にあたっての選定方法は、

当局

アンケートをもとに、幼児から高齢者まで利用しやすい図書館づくりを目指し、分野が偏らないように選定している。30年度は子どもが興味を持って読める本を中心に進めたい。

消防費

消火栓用ホース格納箱の整備は

佐々木委員

地域防災力支援事業について、整備に対する補助の対象は、

当局

消火栓に付属するホース、筒先などの備品と格納箱本体の整備が対象、費用の2分の1を支援する。



新しくしたいなあ

Jアラートメールの受信拡大は

笹原委員

拡大されるメールの受信件数は、また、町外に住む人も受信可能か。

当局

受信件数を約1万5千件まで増やす。町外在住の人も登録可能だが対象条件は絞る。

特別会計

介護保険

通所型サービスB事業について

奥山委員

通所型サービス

B事業は新規事業だが、内容と目的は、

当局

住民主体の、要支援者を中心とした日中の居場所作り、定期的な交流を行なう場である。「なないろの会」が事業を開催していく。

奥山委員

補助が出るが、

要件は、

当局

総合事業の枠組みの中の補助となる。大きな縛りはないが、必ず守る基準があるため、補助金交付要綱に定める。



住民が主体の交流の場

奥山委員

実施団体を増やすことと、開催場所の確保についての考えは、

当局

地域への支援合いについて啓蒙し、将来的に実施団体を増やしていきたい。開催場所は、公共施設や空き家の利用なども検討していきたい。

事業会計

町立病院

地域医療構想の中の白鷹病院の役割は

奥山委員

地域医療構想や

診療報酬改定を踏まえた経営改善とあるが、地域医療構想における病院の役割は、

当局

県としても、自治体には一つしかない小規模病院には、ある程度の急性期的な機能が必要としている。今後の医療の方向性として、公立置賜総合病院などからの転入院などについて期待する。在宅患者の訪問診療料の報酬等も合わせ、将来の見通しを考慮していきたいと考えている。

訪問看護ステーション

訪問看護ステーションの今後の取り組みは

奥山委員

開業医も助かるという話もある。利用者の拡充への対応は、

当局

開業医の患者にも訪問しており、利用者の16%が開業医の患者である。利用した家庭からは、安心感があり頼んで良かったと言われる。PRして知ってもらい、利用者を増やしたい。

奥山委員

この事業をなくさないための方法は、

当局

お金に関わる部分になるため、努力はしてもらいたいながらも、将来にわたっては、町として応援することの検討が必要になると思っている。

反対討論

石川 重二議員

安心・安全なまちづくりや、しらたか元気つ子事業、高齢者生活支援、学童保育など評価に値する事業は多い。

しかし、中丸池下流の防災に関しては、豪雨被害に対処する改善工事を行うべきである。

また農業政策では、これまで小規模農家に対する支援を行ってきたが、昨年からは配慮されず、まったく思いが届かないとの不満が届いており、今予算にも反映されていない。このような点から反対である。

反対議員 石川議員

賛成討論

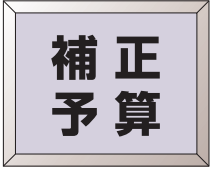
小口 尚司議員

町の歳入は厳しい状態が続いており、基金を活用し町債が縮小されているが、今後も将来負担軽減に配慮されたい。

人口減少緊急対策として若者の定住、移住に向けた事業の効果に期待し、また学力向上に向けた取り組み、子育て支援や教育に関する保護者の負担軽減施策は高く評価する。

迅速かつ確実な事業遂行により町民福祉の増進につながるよう期待し、賛成討論とする。

賛成議員 渡部・笹原 佐々木・小口・小形・田中・山田・奥山・佐藤・菅原・関・今野 各議員



町内企業のがんばりを応援

質疑

委員 企業立地促進事業が減額だが、次年度に向けての町内企業の意欲または感触は。

当局 企業の方々との懇談会にて、設備投資に向けた力強い言葉をいただいております、期待している。

委員 国からの補助が不採択とのことだが、理由と今後の対応は。

当局 舗装改修工事を予定していたが、国は橋の安全対策を優先する考えがあるようだ。今年度で完了する道路改良事業があるので、今後はその枠の中で実施できないか検討していきたい。



町内企業の高い技術を展示
(白鷹町産業フェア)



暮らしに直接かわる道路・河川改良や舗装改修に着実な予算確保を

一般会計補正の主なもの

除雪事業（専決処分を承認） **8100万円**
除雪費の追加計上（2月13日付け専決）。

病院費（経営基盤強化費） **2000万円**
町立病院の経営状況を勘案した対応。

担い手確保・経営強化支援事業 **3617万円**
意欲ある農業者に対して、経営発展に必要な機械や設備の導入を支援（国補正分）。

企業立地促進事業 **△2000万円**
町内企業の設備投資に伴う雇用の促進。
事業費の確定による調整。

町道安全対策事業 **△3295万円**
国からの補助が不採択になったことを受けての減額対応。

急傾斜地崩壊対策事業費 **△3991万円**
県事業の実績見込みにもとづく、県への負担金の調整。

など

◎ 財源は国、県支出金、繰越金などで対応します。

平成29年度補正予算総括表（専決含む）			
会計項目		補正額	補正後の額
一般会計		5855万円	99億7999万円
特別会計	下水道	△1126万円	5億2561万円
	国民健康保険	△6164万円	19億2731万円
	農業集落排水	△2909万円	1億4053万円
	介護保険	△7396万円	16億7322万円
	後期高齢者医療	1345万円	1億4706万円
事業会計	病院	収益的支出	△911万円
		資本的支出	△1272万円

※万円未満は端数を調整しています。

条例

- **白鷹町議会の議決すべき事件を定める条例の設定**
定住自立圏形成協定の締結等を、議会において議決すべき事件とするもの。
- **日本の紅（あか）をつくる町推進拠点施設の設置及び管理に関する条例の設定**
施設の設置・管理について定めるもの。
- **白鷹町国民健康保険税条例の一部改正**
財政運営の責任主体が県に移行することに伴い、保険税率の改正等を行うもの。
- **白鷹町介護保険条例の一部改正**
平成30年度から平成32年度までの第1号被保険者の保険料率の改定等を行うもの。
- **白鷹町保育所設置条例を廃止する条例の設定**
ひがしね保育園の民営化に伴い、町保育所を廃止するもの。

ほか9件

契約

- **白鷹町まちづくり複合施設整備工事請負契約の一部変更**
(地中障害物の撤去工事等の追加)
変更前 25億8876万円
変更後 26億277万6240円
- **日本の紅（あか）をつくる町推進拠点施設整備工事請負契約の一部変更**
(下水道管接続位置の変更等)
変更前 2億5164万円
変更後 2億5377万6240円



人事

- **白鷹町副町長**
白鷹町大字横田尻7062番地の2
横澤 浩 氏

ほか人権擁護委員候補者（2名）

指定管理者の指定

地方自治法にもとづき、各指定管理者に各施設の管理を行わせるもの。

- ◆ **白鷹町総合情報センター**
- ◆ **白鷹町テレワークセンター**
- ◆ **白鷹町森林総合利用施設**
- ◆ **白鷹町ふるさと森林公園**
- ◆ **白鷹町自然活用総合管理施設**
- ◆ **ふるさと森林公園スカイサイクル**
- ◆ **白鷹町産業センター**
一般財団法人白鷹町アルカディア財団
平成30年4月1日～平成33年3月31日
- ◆ **子育て支援センター**
社会福祉法人白鷹町社会福祉協議会
平成30年4月1日～平成35年3月31日
- ◆ **白鷹町食と農村交流施設**
有限会社どりいむ農園
平成30年4月1日～平成33年3月31日
- ◆ **白鷹町深山和紙振興研究センター**
深山区
平成30年4月1日～平成33年3月31日

表彰



全国町村議会議長会
特別表彰

遠藤 幸一 議長



置賜地方町村議会議長会
自治功労者表彰

菅原 隆男 議員



山形県町村議会広報
コンクール表彰

入 選

「議会だより
しらたか 135号」

地方創生、町の成果は

町長 一定の効果はあったと認識している

地方創生の成果は

問

国が進める地方創生は、成果が乏しいと批判も出始めているが、町の成果はどうか。

町長

総合戦略に基づき、6つの戦略アクションプロジェクトを中心に事業を展開している。44項目の数値目標を設定し、18項目について目標達成した。一定の効果はあったと認識している。

婚活子育て応援プロジェクトは

問

人口減少は、結婚率が低い



田中 孝 議員

めと思うが、今後、どのように進め成果を出していくのか。

町長

婚活サポート委員会を中心に支援策を展開している。今後は、これまでの事業を評価、検証し、よりニーズに即した内容への転換をはかりながら、成婚に結び付けた。

気軽な出会いの場を

問

結婚を前提にした集まりではない、出会いの場などの取り組みは。

健康福祉課長

婚活という言葉自体

が敬遠されている。町内飲食店などの協力をいただき、結婚を前提とした出会いを意識しないような出会いの場を作りたい。

紅花生産日本一として

問

紅花を利用したインバウンドの受け入れと、日本の紅をつくる町推進拠点施設を活用した観光推進をどのように取り組むのか。

町長

インバウンド事業は、引き続き近隣市町と連携し取り組んでいく。拠点施設での紅花体験など、食と体験を絡めたツアー設定などを検討していく。

紅花生産の今後は

問

高齢化等により、紅花栽培者も不足している。栽培面積の確保など、今後、どのように進めていくか。



行き場のない・・・

商工観光課長

面積の確保も必要だが、今、最も必要なことは揃むシステムを作ることである。高齢化はどの現場でも避けては通れない。生きがいとやりがいを持つてもらえるような仕組みを作りたい。

旧中山小学校体育館について

問

保管されている史料を整理すべきではないか。

町長

保管すべき種類や数を絞り、活用困難な物は処分しながら整理を進めていく。

問

どのように整理を進めるのか。

教育次長

町文化財保護審議会委員等の意見を聞きながら進める。30年度に配置する文化財活用コーナー（インターネット）の業務の中にも、史料の整理を予定している。

いち早く資料の行き場の確保を

四季の郷内の活性化における若者定住策は

町長 町外からの移住世帯への支援を拡充

近年の出生数は

問 赤ちゃん100人プロジェクトの状況は

健康福祉課長

出生数の推移は、22年は90人、23年は106人、24年は98人、25年は84人、26年は83人、27年は70人である。

子育てにかかるお金は

問 子育て用のお金の推計は

企画政策課長

文部科学省の統計の調査であるが、3歳から高校卒業まで全て公



奥山勝吉 議員

立の場合は520万円ほど、高校のみ私立の場合は700万円ほど、大学まで全て公立の場合1300万円ほど、高校、大学のみ私立の場合は1700万円ほどのようである。

四季の郷の企業誘致は

問 四季の郷地内への企業進出断念後の、新たな企業の誘致状況は

町長 その土地を購入入してくれる企業を何とか紹介してもらえよう、金融機関にお願いをしている。

若者定住政策は

問 「すまいる！住まい」による若者定住促進への効果は

建設水道課長

若者世代の定住を促進するため、住宅取得に対して補助する事業である。27年からの3年間で49戸が建築された。工事総額は約10億8千万円、補助金については約2900万円であり、地域経済の活性化にも大きな成果があった。

四季の郷の居住状況は

問 四季の郷地内への町外からの移住者の状況は

建設水道課長

若者定住サポート事業により、過去3年間で13世帯が四季の郷に居住した。町が販売する用地を購入して建て

た方は7世帯で、そのうち、長井市からの移住が2世帯、飯豊町からが1世帯であった。

さくらの保育園隣地の福祉用地の利用は

問 住生活基本計画のアンケートで、四季の郷に求めるものはスーパー、コンビニという回答がある。それらを踏まえた用地の利用は。

町長

地区の活性化に結びつく利用を考えていく必要がある。かつて福祉の向上という観点から商店の誘致なども検討したが、誘致まで至らなかった。



かわいい赤ちゃん

総合的に考えながらこの用地を生かしていきたい。

人口減少緊急対策プロジェクトチームは

問 チームに女性職員は入っているか

企画政策課長

一定の職務の職員にお願いした経過があり、現在、女性職員は入っていない。

副町長

今後は、女性の視点も活かしながら、実効性のある問題解決に向けた取り組みをしていきたい。

四季の郷、若者タウンの推進を

大規模地震を想定した対策を

町長 町総合防災訓練において訓練を実施



石川重二議員

中丸池の底樋修理を

問

常海沢川と中丸池が土砂で満

砂状態のままだが、豪雨が濁流となり、下流の住宅地に甚大な危害を起すかもしれない。底樋の修理ができれば、土砂堆積を抑え、濁流と土石流の被害を防げるのではないかと追加予算で進めるべきではないか。

町長

関係課で協議した結果、底樋の改修ではなく、新たに整備する方が効率的という対策案も出ており、概算費用の積算に取り組んでいる。農村地域防災減災事業での

対応を含め、県の指導も受けながら検討を進めていく。

大地震を想定した訓練を

問

長井盆地西縁断層帯があり、

大地震により道路は寸断され、橋は落ち、集落すら分断され、避難所にも行けないような事態を想定した訓練は

町長

断層帯があり、熊本地震のような直下型地震の可能性があるとされている。28年度の総合防災訓練では、大規模地震を想定した訓練を実施した。各自主防災組織で、

まずは地域の実情に合った訓練に取り組んでいた。多くの事が重要と考える。

地域内で語り合いを

問

実体験をもとに自主防災組織

で訓練し、身構え、体験を語り合い広げていくべきではないか。

町長

災害時は行政機関、防災機関も被災するため、直ちに対処することは極めて困難になると想定している。自助・共助の意識を持って、予防と減災に向けた取り組みを進め、万が一の事態に備えていただきたい。

防災士へ支援を

問

白鷹町には防災士が19人いる。

防災士の活動は「学校や市民向けの防災教育指導」「被災地支援活動」「防災活動の研修や訓練の企画」などである。

防災士は、話し合いの場を設け、互いの力を高めようという意欲がある。防災士に支援すべきでは。

町長

防災士から相談があれば、どのような形で対応できるか判断しながら、応援させていただく。



とりあえずは、土のうで対応

いそげ直下型地震の対応を

総務厚生常任委員会

出生数減などによる計画の見直し

3月8日に委員会が開催され、白鷹町子ども・子育て支援事業計画の見直し等について説明を受けた。

現況を踏まえ見直し

【概況】

今年度は、「子ども・子育て支援事業計画」の計画期間の中間年である。出生数や入所率等により、入所児童数の見込み等について見直しを行った。

質疑

ひがしね保育園の職員体制は

委員 平成31年度から

ひがしね保育園で未満

児保育を拡充するが、

職員の増員は。

当局 社会福祉協議会では、障がい児への手

主な見直し内容

◆平成30年度の入所児童見込み数について、策定当時の見込み数から見直す。

区 分		見直し
保 育	教育(満3歳以上)	10人→12人
	(0歳)	56人→44人
	(1歳・2歳)	122人(据え置き)
	(3歳以上)	276人→269人

◆平成31年度は、ひがしね保育園の乳児受入のため、0歳及び1歳の入所児童が増えると見込む。

◆平成30年度からの子育て世代包括支援センター設置を見込む。



がんばっている保育士さん



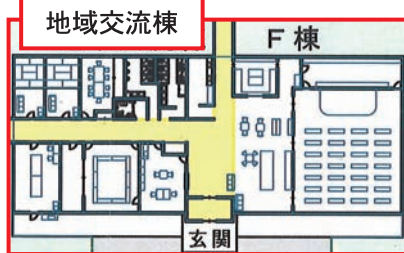
土日祝日の対応の充実を

厚い対応等も考え、すでに採用を行っている地域ニーズに即した体制ができるよう進めている。

施設概要

※特養長期の一部、特養短期、地域交流棟のみ抜粋して掲載しています。
※現時点の案であり、今後、変更となる可能性もあります。

地域交流棟



地域との交流の場にも利用

施設の概要が示された

特別養護老人ホーム白光園の移転新築等について説明を受けた。

質疑

介護保険料への影響は
委員 開設に伴い、介護保険料はいつから変わるのか。

当局 開設は平成32年3月末の予定だが、平成30年度からの介護保険料の中に、この分を見込んでいる。



入居待ちが無いように

その他

○新地方公会計制度に基づく財務書類

○結婚支援（婚活）の状況

○第6次白鷹町総合計画基本構想の策定

○地区コミュニティセンターによる地域づくり事業の取り組み状況

などについて説明があった。

産建文教常任委員会

「日本の紅をつくる町」の認知度は

3月9日に委員会が開催され、日本の紅（あか）をつくる町推進事業の取組み状況について説明を受けた。

主な事業

- ◆全体プロデュース
 - ・推進本部会議開催
- ◆紅花関連新商品開発
 - ・「シラタカ・レッド商品開発発表会並びに即売会」開催
- ◆戦略会議設置
 - ・検証と今後の取組みを検討する。

質疑

紅花の連作障害は

委員 連作障害の有無が話題になる。真偽のほどは。

当局 連作障害は避けられないというのが県農業試験場の結論。紅花生産の難しさや苦労話をコミュニケーションの一つにしてもらいたい。



「シラタカ・レッド」の即売会



ITを利用してPRを
じょうずに！

町民の意見を広く

委員 一般町民の意見をどう取り入れるのか。
当局 まずは戦略会議から意見をもらう。また町報にも出すなどして見える化し、町民の方々からも意見をもらいたい。

町外にもPRを

委員 開発した商品は県外・町外にPRすべきだ。町内に力が入りすぎている。
当局 工夫しながら販路拡大に取り組む。リゾート地の土産物店に置いてもらえないか打診している。

10カ月で158人の転入者（29年4月～30年1月）
移住定住の取組み状況について説明を受けた。

☆移住者は増えるのか！

- ◆移住者数（1月末現在）
 - ・転入者 158人
- ◆移住世帯 29世帯
- ◆移住推進の取組み
 - ・相談会開催9回
 - ・相談者90人
 - ・移住体験ツアー参加者21人
- ◆空き家活用支援
 - ・空き家バンク物件の契約者へ助成

質疑

空き家バンク充実を

委員 空き家バンクの写真の見せ方など、工夫が必要では。

当局 改修にお金をかけたくないケースが多いのではないのか。



若者の相談件数は

委員 若い方の相談件数は。
当局 相談者90人のうち半数が50代以上で、移住して起業したいという人が多い。
新・農業人フェアは若者が多い。

Uターンしたい若者を後押しする施策を

委員 若い人同士で相談し合っているようだ。後押しする施策を考えるべきだ。
当局 力を注いでいく。情報をいただければありがたい。



若者のニーズを知る工夫を！

その他
○白鷹町水道事業経営戦略
○荒砥橋架替工事進捗状況
○除雪（積雪・雪押し場）状況
○白鷹スキー場の状況
について説明があった。

2月1日第1回臨時議会

◎白鷹町防災倉庫整備工事請負契約の一部変更

(地盤改良工事の追加)

契約金額	変更前	変更後
	5270万4000円	5503万8960円

◎道の駅白鷹ヤナ公園ヤナ場改修工事請負契約の一部変更

(工食用道路の新設等の対応)

契約金額	変更前	変更後
	8316万円	9071万3520円



拡幅除雪作業

◎補正予算（専決処分）

一般会計	補正額	補正後の額
	1億330万円	99億2144万円

※除雪経費の増額と、財産区選挙経費の補正。

アンケート集計結果

◆回答数 39通

◆性別 男性22人・女性16人

◆年代	10代： 0人	20代： 0人	30代： 0人
	40代： 3人	50代： 3人	60代： 6人
	70代： 17人	80代以上：10人	

◆質問 ・毎号みていただいていますか

見ている	38
時々見ている	1
見ていない	0

・見やすい、読みやすいと思う紙面は

写真が良い	15	色使いが良い	9
見出しで内容がわかる	11	議会のことがわかる	22
文章がわかりやすい	15		

・見にくい、読みにくいと思う紙面は

言葉が専門的	15	色が多く目が疲れる	7
文章が長い	6	内容が面白くない	8
文章がわかりづらい	9		

※未回答の項目があるため、合計数が合わない箇所があります。

主なご意見・ご感想

●毎回楽しみに見ている。ただ、文章が少しわかりづらい。 ●各研修結果を生かした事例を報告すべき。 ●大変見やすい、読みやすい広報だと思って楽しみにしている。色使いをもう少し整理すると、より落ち着いてみるができると思う。 ●写真がすてきななので、もっと多く載せてほしい。 ●応援しているので、頑張ってもらいたい。

貴重なご意見やご感想を参考に、今後とも、より身近な議会となりますよう努めてまいります。

議会だよりアンケートへのご協力
ありがとうございます。



残り少ない子ども園生活の思い出づくりにと、年長児29人が、おやつ時間に、お菓子のパフェを手作りして楽しみました。
窓から差し込む日の光に間もない春の訪れを感じながら、上手に出来上がった自分のお菓子を大満足で頬張り、にぎやかなひと時を過ごしました。

パフェつくろっ！
愛真こども園
おやつ時間

表紙

地区経営主体を立ち上げ、地域づくりの拠点として、地域課題の解決に向けて取り組みを実施し3年が経過した。

【各地区の取り組み状況】

蚕桑地区コミュニティセンター



●蚕桑鍋まつり

文化祭初日に開催。区や外部団体の6つの鍋が出そろ。約300人が参加。

鮎貝地区コミュニティセンター



●鮎貝歴史の散歩道

小学生を対象に実施。28人が参加。鮎貝地内の史跡等を巡り、自分たちの住む地域の歴史を学ぶ。

荒砥地区コミュニティセンター



●炊き出し訓練

3.11に防災フォーラムを開催。合わせて、炊き出し訓練を実施。これからの防災を地域で考える。

十王地区コミュニティセンター



●元気わくわく教室

介護予防のため、楽しく健康づくり。十王地区は28年度からモデル事業として実施。

鷹山地区コミュニティセンター



●文化伝承事業

地区に伝わる獅子舞をコミセンまつりで披露。地域文化が受け継がれていく。

東根地区コミュニティセンター



●ひがしね東陽塾

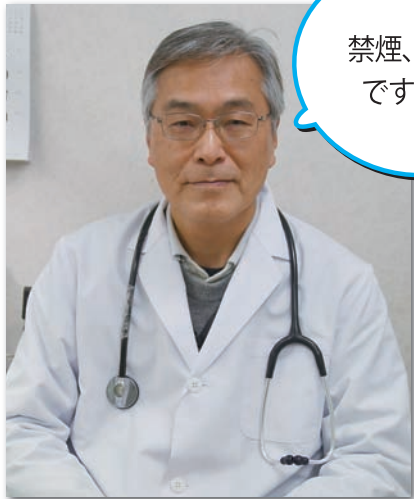
小学生を対象に年12回ほど開催。クラブ教室、おやつ作りなど。毎回30名ほど参加。



【課題】

- ①各コミセンの事務局員と町担当者との研修と検証
- ②各コミセンにおける、自主財源の確保の推進
- ③町主導の事業と地区ごとの事業の整理の推進
- ④マンパワーの確保





多田 久人 先生
(荒砥地区)

禁煙、大事ですよ！

シリーズ

まちのドクター先生！

みんなを元気に！

… 楽しみながら長続きする運動を …

シリーズの4回目は
多田医院の多田久人先生です。

やさしい笑顔が印象的でした。

プロフィール

東 邦大学医学部出身で横澤先生の1年後輩で、テニスでペアを組んだこともあります。山大附属病院や長井市立病院(当時)に勤務後、平成3年に白鷹に戻りました。

専門は

内科と消化器内科。胃や腸、肝臓やすい臓といった部分です。

医師になるきっかけは

軍 医出身の父の影響で、周囲の期待がありました。

インフルエンザ

今年の冬は大流行。子どもと高齢者は症状が重くなりやすいので注意が必要です。

かかりにくい身体をつくるには、睡眠と食事をしっかりと取って体力を維持することが大切です。

家族がかかったら、マスク、手洗い、換気に努めましょう。ワクチン接種で重症化が防げます。

子どもの健康

子どもたちは肥満傾向にあるようです。外遊びなどをすると子になくなつたのも一つの原因でしょう。親の生活習慣を改善しないと、子どもも同じような食生活になってしまいます。

町へ望むこと

訪問看護システムの存続に努めて頂きたい。これは、医師や看護師ケアマネジャー等が連携し、情報を共有しながら訪問看護を実施するシステムです。

全国的にも在宅医療の必要性が高まっています。しかし実施している市町村はまだ少なく、急速に高齢化が進む都会では大きな課題になっています。

この訪問看護を白鷹町では先取りして実施しているわけです。

現在、開業医も同システムを活用しています。

議員へ望むこと

20年、30年後を見据え大きな視野に立って政策を作り上げていただきたいと思っています。

ひとことアドバイス

肥 満になると高血圧になりやすいので、若いうちから運動する習慣を付けてください。

特に体と頭を同時に使う運動は高齢者に最適です。とにかく楽しみながら長続きする運動がいいかと思っています。

禁煙が大事です。例えば肺がんは初期段階での発見が難しく治療も困難です。死亡率も5割になります。

議員さんは率先して禁煙してください。

取材を終えて

町の訪問看護システムは他に誇れる制度であることをあらためて感じる機会になりました。



編集後記

▼2月末で、とうとう町の人口が1万4千人を下まわりました。人口減少に歯止めをかける緊急の対策が求められます。

30年度の予算には、若者の定住や移住を促すための新事業が随所に見られますが、なるべく短い期間で効果を検証し、状況に応じて、さらに対策を加速化するなどの検討をする必要があると考えます。

▼読者アンケートに多くの回答をいただき有難うございました。数々の貴重なご意見を参考に、議会だよりを通して、より身近で開かれた議会となりますよう、広報委員一同努めています。

(佐々木)

広報委員

委員長 奥山 勝吉
副委員長・編集長 佐々木 誠司
委員 石川 重二
委員 笹原 俊一
委員 渡部 善美
印刷・(有)梅津印刷

